

震災を口実にした新たな改憲論 救援の遅れは憲法の欠陥のせい？

民主・自民・公明・「みんな」などの国会議員でつくる「新憲法制定議員同盟」が4月28日、都内で「新しい憲法を制定する推進大会」を開きました。大会では、東日本大震災への対応に際し「(非常事態条項がないなど) 現行憲法の欠陥が明らかになった」とする決議を採択しました。

さらに5月3日には、自主憲法制定国民会議および「21世紀の日本と憲法」有識者懇談会がそれぞれ都内で集会を開き、前記議員同盟の大会と同様の決議をしています。

改憲派の各集会では、大震災への政府の対応の遅れを指摘しつつ、「国家緊急事態を想定していない現憲法には不備がある」と、政府の責任よりも憲法の「欠陥」が強調されました。そのうえで、憲法審査会を早急に開いて憲法の不備是正について論議することが求められました。

また、どの集会でも改憲発議の要件緩和について提言があったのが注目されます。憲法96条を改正して「国会議員の3分の2以上の賛成」を「過半数の賛成」にしようというものです。この動き

はさらに、「96条改正をめざす議員連盟」結成へと連動する気配を見せています。

改憲勢力の最大の目標は9条改定ですが、今それを語らず「現憲法の欠陥」と「96条改定」を叫ぶのには理由がありそうです。それは、震災に乗じて憲法改正の必要性を国民に浸透させること、そして憲法改正のハードルを下げることです。国民の同意がむつかしい9条改定はあと回しにする“迂回作戦”と考えられます。

憲法施行64周年記念 市民の集いに2000人

5月3日、憲法集会が名古屋市公会堂で開かれ、元海兵隊員で現在沖縄に住み沖縄国際大学の非常勤講師をしているダグラス・ラミスさんが、基地問題と憲法九条との関係について講演しました。

ラミスさんは「基地問題の根本は日米安保条約にあることを日本国民は認識し、その解消に取り組んでほしい、それが九条を守ることにつながる」と訴えました。

4月の署名行動

【カッコは前月】

	行動回数	署名数	累計数
高蔵寺駅頭	10 (11)	16 (21)	7,507
スーパー前	0 (4)	0 (14)	2,222
その他	1 (1)	5 (3)	1,450
合計	11 (16)	21 (38)	11,179

4月は行動回数も署名数も、これまでの最低を記録しました。とくにスーパー前は雨天と選挙のため、行動がゼロでした。高蔵寺駅頭での皆さんの反応は、前月に引き続き低調です。「その他」は憲法連絡会の共同行動で、今月は29日(祝日)に都市緑化植物園前で実施しました。参加者が少なかったうえ、植物園の行事の関係で行動時間帯は入園者が少なかったため、署名数はわずかでした。

カンパは、震災救援募金に切り替えました。

憲法九条 平和のつどい 2011

品川正治さん がお話
します
(元 経済同友会専務理事)

5月29日(日) 午後1:20開演
春日井市東部市民センター

第I部 音楽と詩で綴る
愛と平和のメッセージ
一本の鉛筆、さとうきび畑 ほか
松原実智子と市民朗読劇団
小野寺富士雄

第II部 講演 品川正治さん
「戦争を人間の目で見ると
憲法九条を守り抜く」

参加費 500円 (学生無料)

主催：春日井9条の会